

山本教授(中)が演奏法を指導する様子を見守る教員
=18日、坂井市春江中



吹奏楽技術、教え方指南

東京芸大
教授ら 県内中高教員らに
坂井・春江中

県内の中学、高校の吹奏楽部の指導者と部員を対象にした東京芸大教授と大学院生らによる講習会が18日、坂井市春江中で開かれた。教員約20人と中高生約70人が指導方法や演奏技術を学んだ。

県が2014年から芸術教育推進のために同大へ県内中学高校の美術と音楽の教員を派遣している。本年度からは「吹奏楽活動推進事業」として吹奏楽分野の指導が始まり、この日はクラリネット奏者の山本正治教授と

大学院生ら8人が指南した。指導者向けの講習では、山本教授が春江中吹奏楽部の指導を披露。周りの人の音を聞いた上で自分の音を入れることを意識して」と協調性の大切さを説くとともに、繊細な音の表現を実演して分かりやすく伝えた。

三国高の教員小林幸代さんは「音の表現を具体的に伝えることの重要性を再認識した。指導に生かしたい」と話していた。

(山崎彩)